



ふくおか【Good👍】農業人100
 主な農産物／露地ネギ、酒米

菊池 忠徳さん (38歳) (営農地／糸島市高祖)

自分で値段をつける“安売りしない”農業経営

《就農のきっかけ》

水切りトマトとの出会い

農家の長男なので、一旦外に働きに出た後、いずれは農業をしようと考えていたという菊池さん。高校の頃教師を目指して大学を受験しましたがうまくいかず、その時、「どうせ農業をするなら」と親から勧められて、県農業総合試験場に実習生として1年間研修を受けました。両親はキャベツ、水稻、麦を栽培していましたが、県農業総合試験場で高糖度トマト(水切りトマト)のを知り、「これは売れる。自分も作りたい。」と栽培品目をトマトに決めました。当時、水切りトマトを栽培している農家は少なく、研修受入農家が見つからなかったため、八女市の通常の栽培方法の農家でトマト栽培の基礎を1年間学んだ後、就農しました。親とは収支を別にし、経営を分けました。

《これまでの過程》

トマトからネギへ苦渋の転換

平成6年から水切りトマトを栽培。旧前原市(現在糸島市)でこだわりの農産物を福岡市内のデパートに出荷していた組織に加入し、自分で値段をつけて有利販売を展開しました。その後、組織が法人化され、設立当初から取締役を務めています。また、地元で取り組まれていた「高祖ミカンオーナー園」をヒントに「トマトのオーナー制度」に取り組みました。収量と原価計算を基にトマト1本の値段を決め、消費者と契約し、消費者が収穫を楽しむというものです。収穫に來れない人には代わって収穫して送りました。

しかし、平成18年にトマトに病気が入り、加えて重油高騰が重なったことで栽培がうまくいけなくなりました。その当時、結婚して子供もいたので、日中は農作業、夜はアルバイトに出かける日々が続きました。その後平成20年、トマトをあきらめ、心機一転、カットネギ用の露地ネギ栽培に切り替えた頃、父が病気で倒れ、親の水稻も栽培しなければならなくなりました。ネギと水稻という初めての品目だったので、栽培技術は地域の先輩農業者に指導を受けながら習得しました。また、ネギは出荷調製等に人手がいるため、



プロフィール

- 家族構成／父、本人、妻、子ども3人
- 営農年数／約18年
- 従業員数／4名
- 耕作(経営)面積／3.7ha
- 販路／相対取引、JA共販

複数の雇用を導入し、被雇用者の管理など新たな仕事も増えましたが、持ち前のバイタリティーで克服していきました。

《これからの展望》

農地を守る農業の仲間を育てたい

ネギを栽培し始めて今年で5年目を迎え、生産は安定してきました。2年前から独自でカットネギ業者と契約し相対取引を始めたことで、経営も安定してきました。現在、経営のリスク分散を図るため、複合する品目を検討中です。

また、地元高祖地区には30代以下の農業後継者が、本人を含めて4人しかいないことに危機感を持っています。農地をこれからも守っていくため、従業員にはできるだけ就農希望者を雇い入れています。そして、将来的には、独立就農させて一緒にやっていく仲間を作っていきたいと思っています。



Good👍 成功のためのポイント

栽培技術の確立、経費の削減、原価計算など経営をみる力(これが難しいけど一番重要。原価がわからないとバイヤーと交渉できない)と営業努力。